

平成25年6月 保守作業(6/2)



前日からの雨で機関車本体は「ずぶ濡れ」状態。これでは車体の磨き作業を行う事は出来ません。幸い前回作業の賜物で車体は比較的キレイな状態を保っていました。そこで・・・

コッペル32号機
(直方市石炭記念館)



周辺の草むしり作業を行いました。雑草パワーは凄まじく、僅か2ヶ月で「ウソだろ!」と思うくらい生い茂っており、思った以上に悪戦苦闘・・・



上写真と同じ場所を作業後に撮影。砂利を敷き詰めた所(灰色部分)の雑草が取り払われ、すっかりキレイになりました。

国鉄バス ミnitzアー
(宮若市石炭記念館)



今回から実施の『新企画』です。第一回は「宮若市石炭記念館」を訪れました。ここにはコッペル32の僚友機「アルコ22」が静態保存されています。



記念館スタッフの厚意により、フェンス内に入れて頂いた上、運転室内も拝見させて頂きました。※通常は立入禁止となっていますので、無断立入は絶対におやめ下さい。立入を希望される際は、記念館スタッフに申し出て下さい。但し、状況によっては御希望に添えない場合がございます。悪しからず御了承下さい。

国鉄バス ミニツアー
(宮若市石炭記念館)



続いて館内へ。
建物は、廃校となった小学校の校舎をそのまま利用したものだそうです。
画像の立派なジオラマは、写真に写っているスタッフの方が一人で手作りされたとの事(@_@)
この場所に以前あった小学校の最盛期の姿を、実物の1/150サイズで再現してあります。
キャストが付で移動出来る優れモノです(^o^)



これも同じスタッフの方による「8連長屋」の模型。室内や調度品もリアルに再現され、雨戸や障子なども可動するという拘りぬいた作品です。



上の長屋をローアングルで写すとご覧のとおり。人形たちも、針金と粘土でひとつひとつ手作りされた力作で、手作りの「ぬくもり」が感じられます。それぞれの表情が豊かで、躍動感に満ちています。



こちらは運炭車「セム1」の1/10スケールモデル。
実物が保存されている直方市石炭記念館に足を運び、各部を採寸して作ったというから驚きです。
こうなったら敷地内に保存されている「アルコ22」も作って貰いたいなあ...



当時の教室が再現された部屋。木製の机や椅子はかなり貴重なものらしく、映画製作の折に貸し出した事もあったそうです。この地にかつて存在した「貝島炭鉱」の歴史がよく分かる施設です。恥ずかしながら、身近にこんな施設が存在する事すら知りませんでした。これだけの内容を以って入館料無料！是非、足を運んでみて下さい。



最近、傷みが目立つようになってきた車体。傷んだ部分の塗装を剥がして補修に取り掛かりました。が、程なくして小雨がパラパラ…作業を断念せざるを得ませんでした(T_T)

D51形225号機
(直方いこいの村)



こちらも周辺の「草むしり」作業を行いました。



9600形59647号機
(汽車倶楽部)



雨が少し強くなってきたため、車庫のシャッターも最低限必要な分のみ開けての作業となりました。



シャッターの窓部分越しに、ボイラー上で作業にあたるメンバーを撮影。

9600形59647号機
(汽車倶楽部)



無塗装のロッド周りは油を塗布して錆を防ぎます。

C61形18号機
(汽車倶楽部)



雨のため、落ち葉を掃き落とすなどの作業に限定。

いすゞキュービック
(汽車倶楽部)



汽車倶楽部に隣接する「大谷運送」様のガレージをお借りして補修作業を行う「バス会」メンバー。屋根付ガレージを使わせて頂いた事で、雨を気にする事なく作業が出来ました。